

様式 8

「川づくり団体」部門

河川基金助成事業

「藤前干潟クリーン大作戦・流域圏交流事業」

助成番号：2022 - 6112 - 011

藤前干潟クリーン大作戦実行委員会
実行委員長 坂野 一博

2022 年度

1. 活動の概要

1.1 藤前干潟クリーン大作戦実行委員会の活動目的

土岐川・庄内川、新川、日光川の河口にある藤前干潟（名古屋市港区および飛島村）は長年の市民活動によってごみ埋め立てを免れ、2002年11月に国設鳥獣保護区の指定とともにラムサール条約の登録地となった。日本有数の渡り鳥の飛来地である藤前干潟は、生命のつながりと私たちの暮らしのあり方を教えてくれる貴重な場所となった。しかし、登録当時の藤前干潟とその周辺の護岸は、上流から運ばれたペットボトルやビニール袋、発泡スチロールなどの石油原料の製品ごみに覆われており、流域住民の良識が問われかねない状況にあった。

このような状況を改善するため、2004年10月に「①ラムサール条約に恥じない藤前干潟にする」、「②子供達が安心して遊べる干潟や川を取り戻す」、「③流域全体のごみや水のことを考えるネットワークを形成する」の三つの目標を掲げて「藤前干潟クリーン大作戦実行委員会」を結成した。その後、年2回の藤前干潟の大規模ごみ清掃活動「藤前干潟クリーン大作戦」を行い、上下流・伊勢湾でつながる団体との連携した活動を進めるとともに流域一帯で「ごみゼロ」を目指す啓発活動を行い、2022年度で19年目の活動となっている。

また、2022年度は藤前干潟がラムサール条約に登録されて20周年を迎える節目の年であることから、市民への藤前干潟やごみに関する普及啓発に一層力を入れた。

1.2 藤前干潟クリーン大作戦実行委員会の構成

2004年に藤前干潟クリーン大作戦実行委員会は、「NPO法人エコストック実行委員会」、「土岐川・庄内川流域ネットワーク」、「NPO法人藤前干潟を守る会」、「リバーサイドヒーローズ・多治見さかなの会（現在は河川自然環境保全復元団体リバーサイドヒーローズ）」の土岐川・庄内川で活動する4市民団体が構成団体として発足した。その後、活動を広げ、2006年春に「NPO法人モリゾー・キッコロと環境活動を推進する会」が、2010年春に「庄内川川ナビ歩こう会」が、2011年6月に「IPG（産業廃棄物専門家集団）」が、2015年春に「かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議」、「土岐川・庄内川源流森の健康診断実行委員会（現在は土岐川・庄内川源流の森委員会）」、「名古屋市稲永スポーツセンター」、「なごや舞祭衆」、「一般社団法人ClearWaterProject」、「萌木舎」、「中部大学ボランティア・NPOセンター」が、そして2016年4月に「名古屋野鳥観察館」が加わり、2017年3月には、「愛地クリーンプロジェクト」と「中部大学上野研究室」が加わった。

その後、2019年3月に「愛地クリーンプロジェクト」が、2019年6月に「なごや舞祭衆」が退会し、現在は15団体で活動している。

1.3 藤前干潟クリーン大作戦実行委員会のこれまでの取り組み

藤前干潟クリーン大作戦実行委員会の最も大きな活動である年2回実施の大規模清掃活動「藤前干潟クリーン大作戦」については、2022年度までに37回を企画し、雨天や新型コロナウイルス感染症感染拡大防止による中止はあったが、延べ42,541名の参加があり、収集したごみは45Lごみ袋で延べ52,404袋になった（図1.1および表1.1参照）。

この他、土岐・庄内川や伊勢湾の上流、下流におけるごみ清掃活動に参加したり、ごみと水を考える集いを開催したりするなど、上下流域との交流を図り、深めてきた（当実行委員会の歩みとこれまで取り組んだ活動については別紙1）。

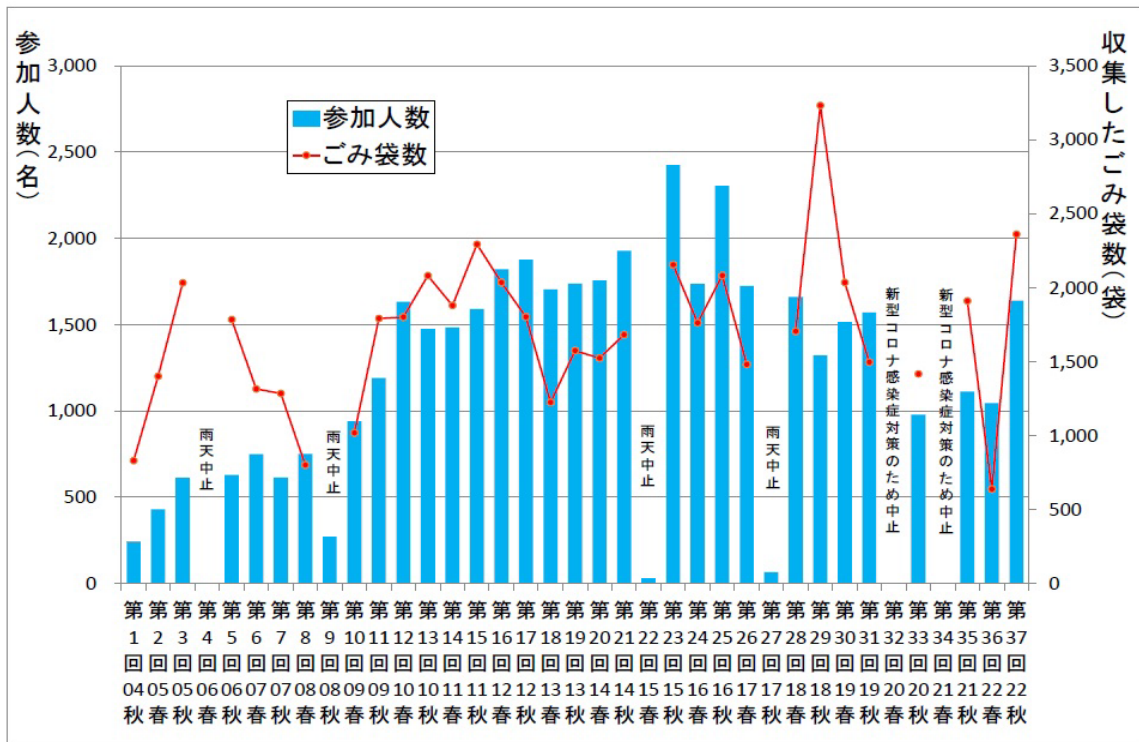


図1. 1 今までの藤前干潟クリーン大作戦の参加人数と収集したごみ袋数(45Lのごみ袋)の推移

回数・時期	参加人数(名)	収集したごみ袋数(袋(45Lのごみ袋))
第1回 04秋	240	830
第2回 05春	430	1,400
第3回 05秋	612	2,032
第4回 06春	雨天中止	雨天中止
第5回 06秋	628	1,784
第6回 07春	748	1,314
第7回 07秋	614	1,284
第8回 08春	750	800
第9回 08秋	271	雨天中止
第10回 09春	939	1,018
第11回 09秋	1,190	1,791
第12回 10春	1,632	1,800
第13回 10秋	1,474	2,080
第14回 11春	1,483	1,879
第15回 11秋	1,589	2,293
第16回 12春	1,821	2,034
第17回 12秋	1,876	1,802
第18回 13春	1,704	1,224
第19回 13秋	1,737	1,573
第20回 14春	1,755	1,523
第21回 14秋	1,928	1,681
第22回 15春	30	雨天中止
第23回 15秋	2,424	2,154
第24回 16春	1,735	1,761
第25回 16秋	2,305	2,081
第26回 17春	1,724	1,480
第27回 17秋	65	雨天中止
第28回 18春	1,661	1,704
第29回 18秋	1,321	3,231
第30回 19春	1,514	2,034
第31回 19秋	1,570	1,495
第32回 20春	新型コロナウイルス感染症対策の為中止	新型コロナウイルス感染症対策の為中止
第33回 20秋	977	1,416
第34回 21春	新型コロナウイルス感染症対策の為中止	新型コロナウイルス感染症対策の為中止
第35回 21秋	1,111	1,909
第36回 22春	1,045	637
第37回 22秋	1,638	2,360
合計	42,541	52,404

表1. 1 今までの藤前干潟クリーン大作戦の参加人数と収集したごみ袋数(45Lのごみ袋)

2. 活動の内容

2.1 活動日・場所・目的・内容等

(1) 第36回'22春の藤前干潟クリーン大作戦の開催

日程：2022年5月28日（土）

場所：藤前干潟（土岐川・庄内川、新川、日光川河口一帯）の藤前会場および6学区会場（明德、当知、高木、神宮寺、福田、南陽）の計7会場
 ※中堤会場と2学区会場（港西、野跡）は庄内川河口に不発弾が発見されたため開催できなかった。

目的：藤前干潟およびその周辺の護岸のごみを拾う活動等を行い、地元住民や流域を含む多くの参加者とともに「①藤前干潟をラムサール条約に恥じないきれいで、安全な場所にする」、「②藤前干潟の現状を知る」、「③参加者間で交流を深める」、「④藤前干潟やその流域の保全、さらにごみの生まれにくい生活についてさらに考える」を進める。

内容：ごみ清掃活動、外来植物の駆除活動（一部の学区会場）、土岐川・庄内川の水質調査（藤前会場）、マイクロプラスチックの収集（藤前会場）

主催：藤前干潟クリーン大作戦実行委員会

共催：庄内川・新川沿い（名古屋市港区）の各学区連絡協議会および各学区保健環境委員会

※藤前干潟ふれあい事業の協力事業

※海ごみゼロウィーク2022に参加

チラシ（別紙2）：以下を5,500部印刷、配布



(2) 第37回'22秋の藤前干潟クリーン大作戦の開催

日程：2022年10月22日（土）

場所：藤前干潟（土岐川・庄内川、新川、日光川河口一帯）の中堤会場および藤前会場、8学区会場（明德、当知、高木、神宮寺、港西、野跡、福田、南陽）の計

現状に関する報告（四日市大学千葉賢教授）、藤前干潟などで活動をしている高校生や大学生の報告と交流（名城大学附属高等学校、名経大市邨高等学校、愛知県立惟信高等学校、中部大学ボランティア・NPOセンター）、ごみが生まれない社会創りを目指すアピール7項目の採択、藤前干潟のマイクロプラスチックや野鳥観察をするエクスカージョン（希望者のみ）

主催：藤前干潟クリーン大作戦実行委員会、土岐川・庄内川源流の森委員会、NPO法人土岐川・庄内川サポートセンター、22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会、NPO法人四日市ウミガメ保存会

共催：藤前干潟ふれあい事業実行委員会

チラシ（別紙4）：以下を500部印刷、配布

2022年藤前干潟はラムサール条約20周年を迎えました

藤前干潟
FUKUNAKA

第10回
ごみと水を考える集い

入場無料 2023年2月25日(土) 12:30~15:30

会場 藤前会館(名古屋港区藤前1-742) 定員 80名(先着順) 申込締切: 2023年2月18日(土)

講演「藤前干潟のマイクロプラスチックの現状について」
名古屋環境局減量推進室 職員
世界的に大きな問題となっている海洋プラスチック。ラムサール条約登録湿地である藤前干潟にも多くのプラスチックが漂着しています。名古屋環境局が2021年秋に実施した藤前干潟のプラスチックごみ。さらにはマイクロプラスチックごみの調査から分かった現状などを発表させていただきます。

報告「伊勢湾のマイクロプラスチック調査の最近の成果」
千葉 賢 氏(四日市大学環境情報学部 教授)

発表と交流 進行：環境省名古屋自然保護官事務所アクティブ・レンジャー
ゲスト：名城大学附属高等学校、名経大市邨高等学校、聖カピタニオ高等学校、中部大学
藤前干潟やその流域の保全に關わる若い力が揃っています。藤前干潟での活動経験のある学生の皆さんに、それぞれの活動や思いなどを紹介・発表いただきます。

申込方法
HP、またはQRコードから申込フォームにアクセスし、申込みください。

呼びかけ団体
主催：土岐川・庄内川源流の森委員会 NPO土岐川・庄内川サポートセンター
22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会 四日市ウミガメ保存会
藤前干潟クリーン大作戦実行委員会

問い合わせ先 藤前干潟クリーン大作戦実行委員会事務局(無料) 藤前干潟クリーン大作戦 検索
TEL:090-4399-9774
Email:keensxp@pmas@gmail.com HP:hp22cpi02eennp@pmas.jp/m000e/zoom

エクスカージョン
(午後のイベントに参加される方のみ、希望者のみ)

日時：2023年2月25日(土) 10:30~11:30
場所：藤前干潟活動センター(名古屋港区藤前2-202)
内容：センター前の湿原を歩き、藤前干潟のこみ(主にマイクロプラスチック)の現状を知ります。センター内の見学や野鳥観察もできます！
持ち物：昼食、防寒対策、歩きやすい靴
申込方法：下記eメールで申込みください(参加費は別途、お振込みください)
藤前干潟クリーン大作戦実行委員会事務局(無料)
TEL:090-4399-9774 Email: cleanxp@pmas@gmail.com

私たちは、呼びかけます。
ごみが生まれない社会をめざして以下の7項目をアピールします。
1 子どもたちが安心して元気に遊べる水辺を取り戻しましょう。
2 たくさんの生きものが生息する場を取り戻しましょう。
3 ごみを見つけたら勇気を出して拾いましょう。
4 ごみを捨てない大人と子供をばくみしましょう。
5 ごみが生まれない社会をつくりましょう。
6 山、川、里、海それぞれで活動する人どうしの繋がりをつくりましょう。
7 流域全体で人と自然が共生する環境をつくりましょう。
(「第1回~第9回のごみと水を考える集い」で採択しました。)

感染症対策
マスクを着用してください。体調不良時は参加をお控えください。

ご来場について
公共交通機関(三重交通バス)でお越しの場合
名鉄バスセンター3階(6分駅) 南陸前前 11時00分発 徒歩約5分 乗車料無料
11時00分発 12時02分着
(乗車料無料のバスを乗る場合は乗車料を別途お支払いください)
※バスセンターにお越しの際は、「名鉄バスセンター」9時30分発~10時00分着のバスに乗車してください。
お車でのお越しの場合
藤前会館に隣接する駐車場へ駐車できます(無料)。
※バスセンターの駐車場である藤前干潟活動センターにも無料駐車場があります。

本取組は公益財団法人河川財団「河川基金」の助成を受けています。
本取組は藤前干潟ふれあい事業共催事業として実施します。

2.2 活動に向けた事前の取り組み

(1) 第36回'22春および第37回'22秋の藤前干潟クリーン大作戦

前年(2021年)の秋の藤前干潟クリーン大作戦開催日(10月23日)までに、「第36回'22春の藤前干潟クリーン大作戦」と「第37回'22秋の藤前干潟クリーン大作戦」の開催日をそれぞれ5月28日(土)と10月22日(土)に決定した。開催日は干潮時間が正午前後になる5月と10月の土曜日から選んだ。前年の秋の藤前干潟クリーン大作戦開催時から翌年の開催日の周知をはじめ、より多くの人に藤前干潟クリーン大作戦に参加してもらうよう努めた。

2022年1月より「第36回'22春の藤前干潟クリーン大作戦」の、2022年6月より「第37回'22秋の藤前干潟クリーン大作戦」の準備をはじめ、毎月1回の実行委員会のミーティングを行って活動の具体化をはかるとともに(7月はミーティングを実施せず)、現地確認や現地整備(草刈り等)、管理者との調整、協力団体・機関への要請、広報(HP掲載、チラシ送付等)、参加者の感染症対策および熱中症対策用品等の必要物品の調達等を行った。

なお、コロナ禍での開催となったため、開催の是非や感染症対策については実行委員会のミーティングや関係者との打ち合わせの都度に話し合い、開催の判断を随時行うとともに以下の感染症対策を行った。一方で、感染状況等が改善されたことから前年度では実施してい

た参加人数の上限設定と事前申込制は撤廃した。

＜新型コロナウイルス感染症対策＞

- ① 密を避けるためにはじめの会、まとめの会を行わない
- ② 中堤会場では1班30人の班編成で清掃を実施
- ③ 体調不良の場合や同居家族等に感染が疑われる場合は参加を控えてもらう
- ④ マスク着用
※人と十分な距離（2m以上）が確保できる場合は、熱中症のリスクを考慮してマスクをはずすことを推奨
- ⑤ COCOAのインストールの協力要請
- ⑥ ソーシャルディスタンスの確保
- ⑦ アルコール消毒液による手指消毒
- ⑧ 大声を出さない（緊急時を除く）

さらに、「第36回’22春の藤前干潟クリーン大作戦」前に庄内川河口にて不発弾がみつかり（大作戦翌日に撤去）、中堤会場および学区会場の一部においては活動を開催できなくなった他、実施可能な会場でも立入り制限がされる場所が生じた。しかしながら、関係者と情報共有や連携を密にして、できる範囲で安全且つ円滑に活動を行うことができるよう準備を進めた。

(2) 三郷の川のクリーン大作戦

コロナ禍の開催であったことから、感染対策を考慮して少人数で参加することとした。

(3) 第10回ごみと水を考える集い

第37回’22秋の藤前干潟クリーン大作戦終了後の11月から準備をはじめ、企画を立てた後、協力団体・機関への要請や登壇の要請、会場確保、広報（HP掲載、チラシ送付等）、配布資料等作成などを行った。また、新型コロナウイルス感染症対策を実行委員会の打合せ等で話し合い、以下の対策を行った。

＜新型コロナウイルス感染症対策＞

- ① 体調不良の場合や同居家族等に感染が疑われる場合は参加を控えてもらう
- ② マスク着用
- ③ ソーシャルディスタンスの確保
- ④ 手洗い、うがいの呼びかけ、アルコール消毒液の設置
- ⑤ 会場の換気

2.3 活動の成果

2.3.1 参加人数および収集したごみの量等

(1) 第36回’22春の藤前干潟クリーン大作戦

7会場で計1,045名が参加した。収集したごみの量は45Lごみ袋で計637袋であった。各会場における収集したごみ袋数（45Lのごみ袋）と参加者数の内訳は表2.1のとおり。また、参加団体および協力団体は以下であった。

＜参加団体＞

○地元自治会一港区明德学区協議会、港区明德学区保健環境委員会、港区当知学区協議会、港区当知学区保健環境委員会、港区高木学区協議会、港区高木学区保健環境委員会、港区神

宮寺学区協議会、港区神宮寺学区保健環境委員会、港区南陽学区協議会、港区南陽学区保健環境委員会、港区福田学区協議会、港区福田学区保健環境委員会

○団体（市民団体等）— I P G（産業廃棄物専門家集団）、愛知県保険医協会、NPO法人エコストック実行委員会、かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議、河川自然環境保全復元団体リバーサイドヒーローズ、庄内川川ナビ歩こう会、新川をよみがえらせる会、NPO法人土岐川・庄内川サポートセンター、土岐川・庄内川源流の森委員会、土岐川・庄内川流域ネットワーク、名古屋市野鳥観察館（東海・稲永ネットワーク）、NPO法人藤前干潟を守る会、ふわく山の会、萌木舎

○会社・法人等— 一般社団法人庄内川災害対策協力会、あおみ建設株式会社名古屋支店、イオンスタイル名古屋茶屋名古屋茶屋イオンチアーズクラブ、一般財団法人みなと総合研究財団、一般社団法人パブリックサービス名古屋事業所、いであ株式会社名古屋支店、宇佐美工業株式会社、NTT西日本東海支店、小川工業株式会社、株式会社大竹組、株式会社大本組名古屋支店、株式会社おかむら、株式会社小島組、株式会社セイブ、株式会社拓進工営、株式会社中央環境保全センター、株式会社中野鉄建、株式会社長谷工コーポレーション、株式会社坂角総本舗、株式会社フジトランスコーポレーション、株式会社不動テトラ中部支店、株式会社舟橋塗装店、株式会社丸二運送、株式会社安江工務店、株式会社吉田組名古屋営業所、鴻池運輸株式会社、新晃コンサルタント株式会社、大日本土木株式会社、TSUCHIYA株式会社名古屋支社、東亜建設工業株式会社名古屋支店、東海理化サービス株式会社、東海緑化株式会社、徳倉建設株式会社、豊田合成株式会社、豊田通商株式会社、日起建設株式会社、日本海工株式会社名古屋支店、日本工営株式会社、日本振興株式会社、日本道路株式会社中部支店・名古屋営業所、日本無線株式会社中部支社、パシフィックコンサルタンツ株式会社、パタゴニア名古屋、ピーエス三菱・前田産業JU、丸輪運送株式会社、水野建設株式会社、南医療生活協同組合、みらい建設工業株式会社中部支店、明治安田生命笠寺営業所、メタウォーター株式会社、郵便局（名古屋港部会）、寄神建設株式会社名古屋支店、吉田工機株式会社、リコージャパン、りんかい日産建設株式会社名古屋支店

○教育機関等— 聖カピタニオ女子高等学校、名古屋経済大学高等学校、中部大学上野研究室、中部大学ボランティア・NPOセンター

○行政機関— 愛知県建設局河川課、愛知県環境局自然環境課、三重県環境生活部大気・水環境課、環境省中部地方環境事務所名古屋自然保護官事務所、国土交通省庄内川河川事務所、国土交通省庄内川河川事務所庄内川第一出張所、名古屋港管理組合、名古屋市上下水道局、名古屋市環境局環境企画課、名古屋市環境局減量推進室、名古屋市環境局港環境事務所、名古屋市稲永スポーツセンター（公益財団法人名古屋市教育スポーツ協会）、名古屋市南陽プール（公益財団法人名古屋市教育スポーツ協会）

○議員等— 衆議院議員工藤彰三事務所、愛知県議員直江弘文事務所、名古屋市議員吉田茂事務所

○報道— 中日新聞、読売新聞、あつたみなとホームニュース、スターキャット・ケーブルネットワーク、名古屋テレビ

<協力団体>

ごみばさみ等提供：豊田合成株式会社、飲料水提供：イオンスタイル名古屋茶屋、ごみ袋提供：公益社団法人名古屋清港会・名古屋港管理組合、医師派遣：愛知県保険医協会、ビニールグローブ提供：I P G（産業廃棄物専門家集団）、資料印刷：東海緑化株式会社、

熱中症対策物資等提供：藤前干潟ふれあい事業実行委員会（事務局：名古屋市環境局環境企画課）、駐車場提供：名古屋市環境局・名古屋市上下水道局打出水処理センター、ごみ処理：名古屋市環境局港環境事業所、その他：国土交通省庄内川河川事務所・環境省中部地方環境事務所・愛知県尾張建設事務所・名古屋市環境局・港区役所

実施場所	ゴミ数量(45L-袋)				粗大ゴミ		参加者(名)				うち庄内川 災害対策 協力会
	不燃物	資源 (発火性 危険物)	可燃物	計	主なゴミ	計	学区	一般	行政	計	
明德学区	2	0	42	44	鉄筋、アルミ管、ス トール石造タンク各1		46		2	48	25
当知学区	3	1	33	37			54		2	56	25
高木学区	3	2	52	57			51		2	53	29
神宮寺学区	11	15	37	63	ガソリン缶、車 のバンパー、テ レビ各1		66		6	72	計 79
港西・稲永学区				0						0	
野跡学区				0						0	
当知陸間 小計	19	18	164	201							
福田学区	0	0	68	68				32		32	
南陽① 福田ポンプ所前	11	2	103	116	鉄パイプ1			61		61	
南陽② 南陽大橋 堤防下道路				0						0	
港区参加 学区関係 小計	30	20	335	385			310	0	12	322	
中堤				0						0	
藤前第1	24	2	178	204	タイヤ2			723		723	
藤前第2	5	1	42	48							
藤前・中堤 小計	29	3	220	252			0	723	0	723	
合計	59	23	555	637			310	723	12	1,045	

表2. 1 第36回'22春の藤前干潟クリーン大作戦における各会場における収集したごみ袋数(45Lのごみ袋)と参加者数等

(2) 第37回'22秋の藤前干潟クリーン大作戦

10会場で計1,638名が参加した。収集したごみの量は45Lごみ袋で計2,360袋であった。各会場における収集したごみ袋数(45Lのごみ袋)と参加者数の内訳は表2.2のとおり。また、中堤会場午後から開催した干潟の生きもの観察会には85名が参加した。

なお、参加団体および協力団体は以下であった。

<参加団体>

○地元自治会—港区明德学区協議会、港区明德学区保健環境委員会、港区当知学区協議会、港区当知学区保健環境委員会、港区高木学区協議会、港区高木学区保健環境委員会、港区神宮寺学区協議会、港区神宮寺学区保健環境委員会、港区港西学区協議会、港区港西学区保健

環境委員会、港区野跡学区協議会、港区野跡学区保健環境委員会、港区南陽学区協議会、港区南陽学区保健環境委員会、港区福田学区協議会、港区福田学区保健環境委員会

○団体（市民団体等）— I P G（産業廃棄物専門家集団）、愛知県保険医協会、NPO法人エコストック実行委員会、かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議、河川自然環境保全復元団体リバーサイドヒーローズ、庄内川川ナビ歩こう会、NPO法人土岐川・庄内川サポートセンター、土岐川・庄内川源流の森委員会、土岐川・庄内川流域ネットワーク、名古屋市野鳥観察館（東海・稲永ネットワーク）、NPO法人藤前干潟を守る会、宝神三丁目町内会、萌木舎、三郷の川を美しくする会

○会社・法人等— 一般社団法人庄内川災害対策協力会、JRCシステムサービス株式会社、SAPJapan、TSUCHIYA株式会社名古屋支社、あおみ建設株式会社名古屋支店、旭運輸株式会社、アジア航測株式会社、アジアプランニング株式会社、イオンスタイル名古屋茶屋、一般財団法人みなと総合研究財団、宇佐美工業株式会社、エクシオグループ株式会社東海支店、小川工業株式会社、株式会社伊藤工務店、株式会社大增コンサルタンツ、株式会社大本組名古屋支店、株式会社おかむら、株式会社小島組、株式会社佐賀電算センター、株式会社ダイセキ環境ソリューション、株式会社拓進工営、株式会社地域環境計画、株式会社中央環境保全センター、株式会社豊田自動織機、株式会社豊田自動織機班長会、株式会社橋本潜水興業、株式会社長谷工コーポレーション、株式会社坂角総本舗、株式会社不動テトラ中部支店、株式会社丸二運送、株式会社安江工務店、鴻池運輸株式会社、コヅカテクノ株式会社、新晃コンサルタント株式会社、大日本土木株式会社、東亜建設工業株式会社名古屋支店、東海非鉄リサイクル協同組合青年部、東海緑化株式会社、徳倉建設株式会社、豊田合成株式会社、豊田通商株式会社、南陽イオンチアーズクラブ、西松建設株式会社中部支店、日起建設株式会社、ニッケイ株式会社、日産化学株式会社名古屋工場・日産物流株式会社西日本支店名古屋物流センター、日本海工株式会社名古屋支店、日本振興株式会社、日本道路株式会社中部支店・名古屋営業所、日本野鳥の会愛知県支部、日本郵船株式会社名古屋支店、日本旅行業協会中部支店、認定NPO法人ハンズオン東京、パタゴニア名古屋、ピーエス三菱・前田産業JU、日比谷総合設備株式会社東海支店、日比谷通商株式会社東海支店、みなと医療生活協同組合、南医療生活協同組合、みらい建設工業株式会社中部支店、村本建設株式会社名古屋支店・名友会、明治安田生命保険相互会社名古屋南支社、メタウォーター株式会社、郵便局（名古屋港部会）、寄神建設株式会社名古屋支店、吉田工機株式会社、りんかい日産建設株式会社名古屋支店

○教育機関等— 道徳和光幼稚園、中部大学上野研究室、中部大学ボランティア・NPOセンター

○行政機関— 愛知県建設局河川課、愛知県環境局環境政策部自然環境課、環境省中部地方環境事務所名古屋自然保護官事務所、国土交通省庄内川河川事務所・庄内川第一出張所、名古屋港管理組合、名古屋市上下水道局、名古屋市環境局環境企画課、名古屋市環境局減量推進室、名古屋市環境局港環境事務所、名古屋市稲永スポーツセンター（公益財団法人名古屋市教育スポーツ協会）、名古屋市南陽プール（公益財団法人名古屋市教育スポーツ協会）

○議員等— 衆議院議員工藤彰三事務所、愛知県議員直江弘文事務所、名古屋市議員吉田茂事務所

○報道— 名古屋テレビ、あつたみなとホームニュース

<協力団体>

仮設トイレ設置：大日本土木株式会社、ごみばさみ等提供：豊田合成株式会社、飲料水提供：イオンスタイル名古屋茶屋、ごみ袋提供：公益社団法人名古屋清港会・名古屋港管理組合、医師派遣：愛知県保険医協会、ビニールグローブ提供：I P G（産業廃棄物専門家集団）、熱中症対策物資等提供：藤前干潟ふれあい事業実行委員会（事務局：名古屋市環境局環境企画課）、AED貸出：港保健センター、駐車場提供：名古屋市環境局・名古屋市上下水道局打出水処理センター、会場整備：中川区正色学区消防団・庄内川安全協議会、ごみ処理：名古屋市環境局港環境事業所、その他：国土交通省庄内川河川事務所・環境省中部地方環境事務所・愛知県尾張建設事務所・名古屋市環境局・港区役所

実施場所	ゴミ数量(45L・袋)				粗大ゴミ		参加者(名)				うち庄内川 災害対策 協力会
	不燃物	資源 (発火性 危険物)	可燃物	計	主なゴミ	計	学区	一般	行政	計	
明德学区	2	1	11	14			23		2	25	
当知学区	1	2	4	7			50		2	52	16
高木学区	10	5	15	30			31		3	34	14
神宮寺学区	7	5	35	47	木板1、ソファ1		122		2	124	41
港西・稲永学区	3	1	21	25	木板2、タイヤ1、家電1		80		2	82	計71
野跡学区	7	3	51	61	タイヤ1、コンパネ等		118		3	121	
当知陸 小計	30	17	137	184							
福田学区	9	8	174	191				41		41	
南陽① 福田ポンプ所前	7	1	103	111				52		52	
南陽② 南陽大橋 堤防下道路				0						0	
港区参加 学区関係 小計	46	26	414	486			517	0	14	531	
中堤	56	20	1035	1,111				518	1	519	
藤前第1	10	2	700	712	タイヤ5			588		588	
藤前第2	4	3	44	51	タイヤ12						
藤前・中堤 小計	70	25	1,779	1,874			0	1,106	1	1,107	
合計	116	51	2,193	2,360			517	1,106	15	1,638	

表2. 2 第37回'22秋の藤前干潟クリーン大作戦における各会場における収集したごみ袋数(45Lのごみ袋)と参加者数等

(3) 三郷のクリーン大作戦

当実行委員会より2名が参加した。

(4) 第10回ごみと水を考える集い

午前中に行ったエクスカーションには39名が参加し、午後からの集いには市民団体、教育機関、行政機関、企業等からあわせて30団体90名が参加した。また、集いの最後には、ごみ

が生まれにくい社会創りを目指すアピール7項目を採択した。採択したアピール文と参加団体は以下のとおり（集いの講演および報告内容等は別紙5配布資料）。

＜アピール文と参加団体＞※藤前干潟クリーン大作戦実行委員会のホームページに掲載

第10回ごみと水を考える集いからのアピール

本日、名古屋市港区の藤前会館に山、川、里、海で活動する市民団体・教育機関・企業・行政等30団体、90人が参加して、第10回「ごみと水を考える集い」を開催しました。

私たちは、名古屋市環境局ごみ減量室の山田智隆氏の「藤前干潟のプラスチックごみ、マイクロプラスチックの現状について」の講演で藤前干潟におけるプラスチックごみの現状を知りました。

また、四日市大学環境情報学部の千葉賢教授による「伊勢湾のマイクロプラスチック調査の最近の成果」の報告で、藤前干潟や藤前干潟に繋がる伊勢湾のマイクロプラスチックの現状や脅威について学び、自然環境の保全と健康を守る上からプラスチックおよびマイクロプラスチックごみ問題への取組みが必要なることを認識しました。

さらに、本日の発表と交流では、高校生・大学生の若い人々が藤前干潟やそこにつながる流域におけるごみや水に関わる活動・取組みを発表し、未来への思いを語ってくれました。そして、このような若い人々の活動は私たちの大きな力になることを感じました。

本日の参加者は「第10回ごみと水を考える集い」の参加をとおして、改めて自らのフィールドでの取組みの大切さと、伊勢・三河湾流域圏一体の清掃活動の強化と啓発活動が重要なことを再認識しました。今後も「ごみが生まれにくい社会創り」の実現を目指しましょう。

私たちは、以下の7項目を呼びかけます。

- 子どもたちが安心して元気に遊べる水辺を取り戻しましょう。
- たくさんの生きものたちが生息する場を取り戻しましょう。
- ごみを見つけたら勇気を出して拾いましょう。
- ごみを捨てない大人と子どもをはぐくみましょう。
- ごみが生まれにくい社会を創りましょう。
- 山、川、里、海それぞれで活動する人どうしの繋がりをつくりましょう。
- 流域全体で人と自然が共生する環境を創りましょう。

2023年2月25日

第10回 藤前干潟 伊勢・三河湾のごみと水を考える集い参加者一同

＜アピールを採択した第10回ごみと水を考える会に参加した教育機関・企業・市民団体等＞

四日市大学環境情報学部、名城大学附属高等学校、名経大市邨高等学校、愛知県立惟信高等学校、中部大学NPO・ボランティアセンター、豊田合成株式会社、明治安田生命、株式会社愛工機器製作所、名古屋テレビ放送株式会社、鯉城・堀川と生活を考える会、一般財団法人みなど総合研究財団、松並木つくり隊、NPO法人四日市ウミガメ保存会、22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会、JF鳥羽磯部漁業協同組合、NPO法人伊勢湾フォーラム、新川をよみがえらせる会、NPO法人土岐川・庄内川サポートセンター、萌木舎、土岐川・庄内川流域ネットワーク、土岐川・庄内川源流の森委員会、名古屋市野鳥観察館（東海・稲永ネットワーク）、NPO法人藤前干潟を守る会、藤前干潟クリーン大作戦実行委員会

＜第10回ごみと水を考える会参加の行政・公的機関＞

愛知県尾張建設事務所、三重県環境生活部大気・水環境課、名古屋市環境局減量推進室、名古屋市環境局環境企画課、環境省中部地方環境事務所資源循環課、環境省中部地方環境事務所名古屋自然保護官事務所、国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所、名古屋港管理組合港営部港営課、名古屋港管理組合企画調整室

2.3.2 活動時の様子(写真)

(1) 第36回'22春の藤前干潟クリーン大作戦 (別紙6も参照のこと)



写真2.1 藤前会場の受付(助成の掲示)



写真2.2 藤前会場の受付のアナウンス



写真2.3 藤前会場の清掃活動①

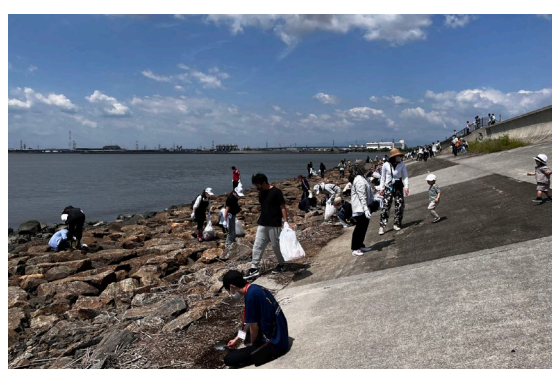


写真2.4 藤前会場の清掃活動②

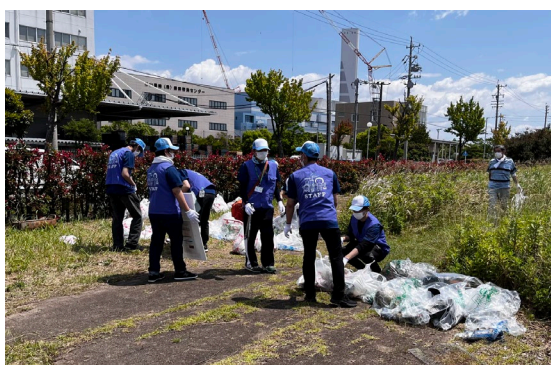


写真2.5 藤前会場のごみ収集所



写真2.6 藤前会場で収集したごみ



写真2.7 南陽学区会場の清掃活動



写真2.8 福田学区会場の清掃活動



写真2.9 藤前会場のマイクロプラスチック収集



写真2.10 マイクロプラスチックの分別

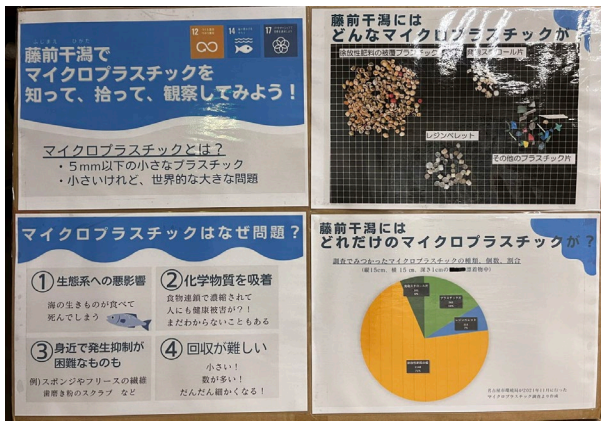


写真2.11 マイクロプラスチック啓発パネル



写真2.12 分別したマイクロプラスチック



写真2.13 藤前会場で行った水質調査



写真2.14 水質のパッケージテスト(COD)

【今回の水質調査の結果】							
地点	透明度 (m)	COD (mg/L)	pH	ORP (mV)	EC (μS/cm)	塩分 (%)	臭気
恵那市	100	2.0	7.3	134	0.11	0.00	なし
多治見	26.5	4	7.3	159.3	0.11	0.00	なし
明彦橋	32.0	8~	6.7	186.3	6.52	0.30	化学的7倍
庄内橋	22.9	5	7.5	189.3	8.88	0.83	明彦に比べ いずかに 少し高い。
藤前干潟	7	7.5		18.2	0.89		

写真2.15 水質調査の結果

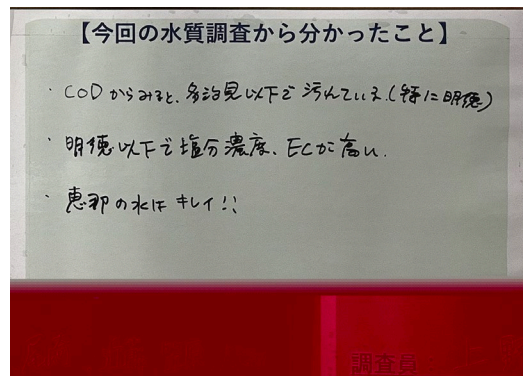


写真2.16 水質調査から分かったこと

(2) 第37回'22秋の藤前干潟クリーン大作戦 (別紙7も参照のこと)



写真2.17中堤会場の受付(遠景)



写真2.18中堤会場の受付(助成の掲示)



写真2.19中堤会場の受付(近景)



写真2.20中堤会場の参加者



写真2.21中堤会場におけるバス移動



写真2.22中堤会場の清掃活動①



写真2.23中堤会場の清掃活動②



写真2.24中堤会場の清掃活動③



写真2.25中堤会場で収集したごみ①



写真2.26中堤会場で収集したごみ②



写真2.27藤前会場の受付



写真2.28藤前会場の清掃活動①



写真2.29藤前会場の清掃活動②



写真2.30藤前会場のごみ収集所



写真2.31藤前会場で収集したごみ①



写真2.32藤前会場で収集したごみ②



写真2.33南陽学区会場における事前説明



写真2.34南陽学区会場で収集したごみ



写真2.35福田学区会場の清掃活動①



写真2.36福田学区会場の清掃活動②



写真2.37中堤会場で行った水質調査(透視度)



写真2.38中堤会場で行った水質調査

【今回の水質調査の結果】							
地点	透視度	COD	PH	ORP	EC	塩分	臭い
恵那	33.7 _{cm}	8 _{mg/L}	8.1	125 _{mv}	0.09 _{μS/cm}	0.00%	なし
多治見	100 _{cm}	4 _{mg/L}	7.9	119 _{mv}	0.31 _{μS/cm}	0.00%	なし
名古屋 北区	100 _{cm}	8 _{mg/L}	7.6	150 _{mv}	0.48 _{μS/cm}	0.00%	ドブ
名古屋 中川区	57.9 _{cm}	7 _{mg/L}	7.3	112 _{mv}	10.40 _{μS/cm}	0.50%	ドブ 臭
名古屋 港区	97.6 _{cm}	5 _{mg/L}	7.3	138 _{mv}	12.53 _{μS/cm}	0.61%	ドブ

写真2.39水質調査の結果

【今回の水質調査から分かったこと】

- EC 塩分臭いの結果から、恵那 多治見は水質がよいため、名古屋北区以降がよくないことが分かった。
- ECについては、海水の濃度の影響から、高くなるということが分かった。

写真2.40水質調査から分かったこと



写真2.41中堤会場の干潟の生きもの観察会①
(3) 第10回ごみと水を考える集い

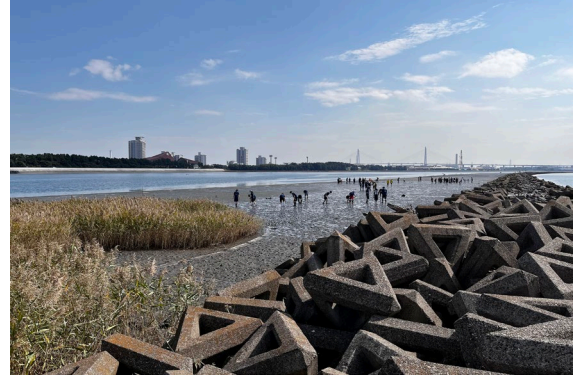


写真2.42中堤会場の干潟の生きもの観察会②



写真2.43エクスカージョン(藤前干潟活動センター)



写真2.44エクスカージョン(藤前海岸)



写真2.45集い会場の様子



写真2.46司会を担当した中部大学の学生(左)



(上左) 写真2.47国土交通省庄内川河川事務所長の挨拶



(上右) 写真2.48環境省中部地方環境事務所資源循環課長の挨拶



(上左) 写真2.49 愛知県尾張建設事務所維持管理課長代理の挨拶



(上右) 写真2.50 名古屋市環境局環境企画課主幹の挨拶



(上左) 写真2.51 名古屋市環境局減量推進室職員による講演



(上右) 写真2.52 四日市大学千葉賢教授による報告



写真2.53 名城大学附属高校による発表



写真2.54 名経大市邨高校による発表



写真2.55 愛知県立惟信高校による発表



写真2.56 中部大学による発表

3. 事業・活動の効果等

3.1 活動の広がり、効果

(1) 藤前干潟クリーン大作戦

当実行委員会の最も大きな活動である年2回実施の大規模ごみ清掃活動「藤前干潟クリーン大作戦」は、2022年度の活動を終えて延べ42,541名の参加があり、収集したごみは45Lごみ袋で延べ52,404袋になった（図1.1および表1.1参照）。

新型コロナウイルス感染症の影響で2020年春と2021年春の活動を中止し、その後には参加人数上限設定や感染症対策という開催制限を行ったにも関わらず、2022年度の第36回'22春および第37回'22秋の藤前干潟クリーン大作戦を多くの参加者を得て実施することができた。特に第37回'22秋の藤前干潟クリーン大作戦は、多くの団体および個人がコロナ禍においても活動を再開したことなどから、1,638名もの非常に多くの参加者があり、参加者数がコロナ禍以前の水準に回復した。

また、地元学区および市民団体、企業、行政の参加、協力はコロナ禍以前と同様に継続され、岐阜県や三重県など伊勢湾流域の他、関東や関西地方という遠方からも再び参加、協力をいただけるようになった。「藤前干潟クリーン大作戦」の活動を長い間継続し、恒例の活動として地域さらに流域に定着させてきたこと、そしてコロナ禍にあっても関係者で丁寧に議論を重ねながらできることを工夫して最大限行ってきたことが、早急な活動の回復に繋がったと考えている。

さらに、2022年度は藤前干潟がラムサール条約に登録されて20周年という節目の年であり、ごみと生活を考える原点となった藤前干潟のごみ問題の普及啓発により力を注いだ結果、市民等の藤前干潟の清掃活動への関心が再び高まり、若い世代をはじめとする新規の参加者が増え、活動は着実に広がりを見せている。

藤前干潟のごみの状況については、2022年度は春の清掃活動で637袋（45Lのごみ袋）、秋の清掃活動で2,360袋（同）ものごみを収集し、河川環境を改善することができた。特に藤前会場においては活動を継続してきたことによりごみは減ってきており、参加者から拾うごみが少なく物足りなかったとの感想が出るほどになっている。一方で、人が入るのが困難な場所においてはごみが集積している場所がまだあり、秋の清掃活動では普段は人が入ることのないヨシ原の先端に参加者を運び、蓄積したごみを撤去した。今後も「ごみゼロ」を目指して工夫して多くのごみを回収し、河川、干潟、ヨシ原の保全を図っていきたい。

(2) 流域間の交流（三郷の川のクリーン大作戦、ごみと水を考える集い）

新型コロナウイルス感染症の影響により人の移動が制限され、流域間での交流を行うことは難しい時期が続いたが、2022年度は藤前干潟に注ぐ土岐川・庄内川の最上流にある岐阜県恵那市で開催された「三郷の川のクリーン大作戦」に少人数ではあるものの継続参加し、地域で活動する人々と交流し、お互いの活動について情報交換することができた。

また、3年ぶりに「ごみと水を考える集い」を開催し、藤前干潟や流域で活動をしている団体および個人が集まり、藤前干潟および伊勢湾流域のごみの現状への知識を深めるとともに、流域で活動する人々が交流を深める場を創出することができた。久しぶりの開催となったが90名もの参加を得て、参加者は熱心に情報交換を行い、それぞれの活動場所へと持ち帰って行った。改めて交流の重要性を認識したとの声も聞かれ、流域全体のごみや水のことを考えるネットワークの強化に繋がったと考えている。

(3) 世代間交流（ごみと水を考える集い）

10回目の開催となったごみと水を考える集いでは、藤前干潟やその流域で活動をしている高校生や大学生の活動報告を聞き、その想いや未来への展望などを参加者同士で語ってもらう機会をつくった。参加者からは「多くの若い人が熱心に活動を行っていることを知ることができて新鮮だった」、「自分たちも初心にかえってもっと頑張らなければと思った」、「若い世代に想いや活動が引き継がれていることがわかって心強い」などという感想を多くいただき、若い人たちの想いや活動は参加者の心を動かし、流域間だけでなく世代間の交流をも行うことができた。また、市民団体の中には高齢化と活動継続がさらに大きな課題となっている団体が少なくなく、活動継続および継承をしていくために今後の世代間交流実施の必要性、重要性がより高まっていることを実感した。

(4) マイクロプラスチックに関する新たな取組み

2021年度は当実行委員会関係者で藤前干潟のマイクロプラスチックの実態を現地で確認し、名古屋市環境局が実施した藤前干潟のマイクロプラスチック調査に協力を行うなどした結果、非常に多くのマイクロプラスチックが藤前干潟にあることが分かり、マイクロプラスチックに関する取組みの必要性を認識した年であった。2022年度は春の清掃活動でマイクロプラスチックを収集し、普及啓発する新たな取組みを実施した他、ごみと水を考える集いにおいてマイクロプラスチックに関わる講演、報告を行い、多くの人にマイクロプラスチックの問題を普及啓発することができた。普段の清掃活動ではマイクロプラスチックは目に入りづらく、声掛けがなければマイクロプラスチックの存在にすら気づかない参加者も多いのが実情であり、まだまだ普及啓発等の必要があると感じている。マイクロプラスチックについては今後力を入れて取り組んでいきたい。

(5) 報道について

先に述べたとおり、2022年度は藤前干潟のラムサール条約登録20周年という節目の年だったことから、報道機関による取材が増え、それによる反響も大きいものがあった。2022年度の藤前干潟クリーン大作戦実行委員会の活動に関わる報道は以下の6件だった（それぞれの詳細は別紙8）。

- ① 5月29日中日新聞朝刊掲載
- ② 5月29日読売新聞朝刊掲載
- ③ 6月2日スターキャット・ケーブルネットワーク放送
- ④ 6月25日あつた・みなとホームニュース掲載
- ⑤ 10月22日名古屋テレビ放送
- ⑥ 11月26日あつた・みなとホームニュース掲載

3.2 計画の妥当性

2022年度は前年度よりコロナ禍の影響は減ったものの感染症対策に伴う制限があったが、計画していた2回の大規模清掃活動（「第36回'22春の藤前干潟クリーン大作戦」および「第37回'22秋の藤前干潟クリーン大作戦」）、土岐川・庄内川最上流の清掃活動「三郷の川のクリーン大作戦への参加」、そして「第10回ごみと水を考える集い」を多くの協力を得て無事行うことができた。

大規模清掃活動「藤前干潟クリーン大作戦」の計画にあたってはコロナ禍においても1,000名以上の参加があることを想定し、実行委員会内および関係者と話し合いの上で感染症対策

等を検討し、準備を念入りに進め、安全安心に活動を実施することができた。実際に1,000名以上の多くの地元住民や流域住民等が参加し、第36回'22春の藤前干潟クリーン大作戦の参加者数は1,045名、第37回'22秋の藤前干潟クリーン大作戦の参加者数は1,638名となった。特に第37回'22秋の藤前干潟クリーン大作戦は参加者数がコロナ禍以前の水準に回復し、この活動を通して多くの参加者が藤前干潟のごみと水の現状を知り、河川環境保全やごみについて考える機会を提供できた。

流域の交流を深めることを主目的として開催した「第10回ごみと水を考える集い」は、3年ぶりの開催となったが90名もの多くの参加者があり、盛況であった。参加者は藤前干潟やその流域のごみの現状を共有し、それぞれの活動の情報交換を行うことができ、今後のより良い川づくりにつながる集いとなった。

これらを踏まえ、2022年度の活動の計画は概ね妥当であったと考える。

3.3 目標に対する到達状況

成果目標のひとつとしていた漂着ごみ削減に関しては、2022年度の2回の大規模清掃「藤前干潟クリーン大作戦」の活動において計2,683名の参加者で計2,997袋（45Lのごみ袋）のごみを収集することができ、ごみの削減を市民等の力によって確実に実現できた。

また、非常に小さなごみであるマイクロプラスチックに対する取組み実施を目標に掲げており、清掃活動の中でマイクロプラスチックあふれる藤前干潟の現状とその問題に関する普及啓発の取組みを積極的に行い、「第10回ごみと水を考える集い」では流域でのマイクロプラスチックの現状と最新の研究について理解を深め、流域の参加者ととも問題意識を共有した。一方で、準備の時間が足りなかったことなどから、目指していたマイクロプラスチックの収集・調査などの具体的な行動には十分につなげることができなかった。今後はマイクロプラスチックの収集方法の検討や啓発活動の強化を進めることが課題であると考えている。

しかしながら、2022年度の活動全体を通じて地元住民や流域住民が流域間交流や世代間交流を深めながら、ラムサール条約登録20周年を迎えた藤前干潟の河川環境保全およびごみ問題を考え、継続した行動を行ってきたことは、川づくりにつながっており、今後も活動を継続し、環境改善とごみゼロを目指していく。

3.4 河川管理者等との連携状況

藤前干潟に注ぐ土岐川・庄内川の河川管理者である国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所からは、当実行委員会は河川協力団体として認定を受けており、活動に対して支援を受けている。当実行委員会の発足時から打合せに出席いただいている他、適切な指導やアドバイスを受けるとともに、河川状況や工事などの情報交換を頻繁に行い、「協働」の立場で河川環境の改善や保全を進めている。なお、当実行委員会の活動が多年に亘って中部地方整備局の河川事業に関連した地域づくりに大きく貢献したと評価され、2022年7月に令和4年度中部地方整備局表彰（建設事業関係者功労者等）を受けた（2013年に続いて2回目）。

また、同じく藤前干潟に注ぐ新川と日光川の河川管理者である愛知県尾張建設事務所にも活動開始時から協力やアドバイスを得ており、スムーズに安全に清掃活動ができるよう配慮いただいている。

さらに、藤前干潟は国指定鳥獣保護区であり、環境省の公共施設（藤前干潟活動センターお

よび稲永ビジター) や保護官事務所があることから、環境省中部地方環境事務所にも活動の協力を得ており、生物保全や干潟観察会などのアドバイスを得たり、講師対応を依頼したりしている。

この他、名古屋市とも非常に深く連携しており、港環境事業所には大量のごみの回収と処理をしていただいている。また、環境局は藤前干潟の普及啓発事業を多く実施しているが、環境局が事務局を務める「藤前干潟ふれあい事業実行委員会」の協力事業として藤前干潟クリーン大作戦を位置づけていただいております、熱中症対策物資提供や駐車場の提供等の協力を得ている。今後も上記の機関等とより良い関係を維持し、協力を得られるよう努力していく。

3.5 今後の展望

継続した活動により地域および流域の恒例行事として定着してきた藤前干潟クリーン大作戦だが、実行委員会構成団体や関係団体には高齢化の波が着実に押し寄せている。一方で藤前干潟への関心や、SDGsおよびCSRへの意識の高まりから、新たに清掃活動をしたい人、企業は増えており、非常に嬉しい反面、活動運営の負担は大きくなっていくと予想される。中部大学生が実行委員会の構成団体になるなどすでに若い人々の協力は得られているが、実行委員会の運営の一部を担える若い世代の新規の参入を目指すとともに、負担軽減策を工夫して考え、活動が継続できる体制を整えていきたい。

また、新たな取組みとして2021年度に着手し始めたマイクロプラスチックへの取組みを継続・発展させ、普及啓発を強化するとともに、収集・調査などの具体的な行動を促進し、藤前干潟とその流域の環境改善とごみの生まれにくい社会創りへの貢献を目指していく。

【参考資料】

- 別紙1：藤前干潟クリーン大作戦実行委員会の歩みとこれまで取り組んだ活動
- 別紙2：第36回'22春の藤前干潟クリーン大作戦の案内チラシ
- 別紙3：第37回'22秋の藤前干潟クリーン大作戦の案内チラシ
- 別紙4：第10回ごみと水を考える集いの案内チラシ
- 別紙5：第10回ごみと水を考える集いの配布資料
- 別紙6：国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所による第36回'22春の藤前干潟クリーン大作戦の報告書
- 別紙7：国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所による第37回'22秋の藤前干潟クリーン大作戦の報告書
- 別紙8：2022年度の藤前干潟クリーン大作戦実行委員会の活動に関わる報道

以上

助成番号	助成事業名	所属・助成事業者氏名
2022-6112-011	藤前干潟クリーン大作戦・流域圏交流事業	藤前干潟クリーン大作戦実行委員会 実行委員長 坂野一博
主な実施箇所	藤前干潟クリーン大作戦実施会場 藤前干潟周辺 下図 参照 三郷の川のクリーン大作戦会場 岐阜県恵那市三郷町野井川 第10回ごみと水を考える集い 藤前会館（名古屋市港区）	

藤前干潟クリーン大作戦実施箇所 位置図

クリーンアップ活動実施範囲

助成事業の主な実施箇所

	遠景	近景
河川基金ロゴ等表示状況写真	<p>第10回ごみと水を考える集いにて</p>	<p>第37回 '22秋の藤前干潟クリーン大作戦にて</p>